
スピン・オフ小説 あんたはすごい！

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

【Nコード】

N3208X

【作者名】

水本爽涼

【あらすじ】

時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

第51回

私には見える玉の変化がママには見えていない。これは何か私の身に変化が生じているのではないかと、この時、初めて幸運の兆^{きざし}の到来を意識した。早希ちゃんは今日も携帯を弄^{いじく}っている。チャホヤとされなくても、いっこうに構わないのだが、客という私の存在がありながら何か無視されているようで、気分は必ずしもよくなかった。そんな商売っ気のからつきしない早希ちゃんにママはお冠でもなく、彼女の好きにさせている。その訳は後日、分かるのだが、の段階では彼女が必死に携帯を弄っている訳を私は分からずにいた。それは兎^{ともかく}も角として、早希ちゃんにも私が見える玉の変化が見えるかが気になった。

「早希ちゃん、ちょっとこつちへ来なよ」

遠くのボックス席に座っている彼女に、私は声を投げかけていた。「えっ？ なに？」

彼女は携帯を見つめる視線を上げ、私を見た。そしてゆっくりと携帯を積みながら立つと、カウンターの私の席へと近づき、隣の椅子に腰を下ろした。

「この玉以降さ、何か変わったことないか？」

私は早希ちゃんが水晶玉を見るように仕向ける云い方をした。彼女は、私の言葉に釣られるように玉を見つめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3208x/>

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

2012年1月10日00時53分発行